

日本人司祭からローマ教皇への手紙

1614年に江戸幕府が全国的なキリスト教禁教令を発した後、日本の信徒が苦しんでいるという報告を受けた教皇パウロ5世（1550-1621）は、1619年、日本の信徒に向けて公式な激励の手紙を送りました。日本各地に散らばって潜伏していた司祭たちは一致団結し、日本語とラテン語で手紙を書いて返礼しました。

この一通は、中浦ジュリアンの指導のもとに書かれたと考えられています。イエズス会の日本人司祭中浦ジュリアンは、天正遣欧使節の一員として1585年から1590年までローマに滞在し、二人の教皇に謁見しました。島原地域の署名者12名は、日本語とローマ字、そして花押（手書きの署名符号）を用いて手紙を書きました。手紙の原本はバチカン図書館に所蔵されています。